

長畝ふるさと通信

【2013年7月号】

■ 7月は雨・雨・雨・・・

6月とは打って変わって7月は雨ばかり。とはいっても佐渡の梅雨はそれほど湿度が高いわけでもなく、太平洋側の梅雨に比べれば過ごしやすいのかもしれませんが・・・。そんな中、梅雨の晴れ間にこんな作業をしておりました。

① 畦草刈り・・・田植えを終えた直後、一度は刈り倒した畦草が見事に復活、腰の高さまで伸びています。辺り一面、稲株と同化して緑の絨毯状態です。この時期、畦草と稲株の緑色がほぼ同じになり、稲株の緑が雑草より薄いと肥料切れが起きていると判断する農家もいます。半日もすれば全身汗だく、水分補給がなければやりきれません。



② 穂肥散布・・・7月中旬になると田植えの時に同時散布した肥料を稲が吸い尽くし、肥料切れを起こしてきます。稲株が濃い緑から淡い緑に変わってくると追肥の合図です。ここから稲穂が実り、登熟するまでのエネルギーをチャージするのです。背中に動力散布機と20kgの肥料を背負って畦道を歩きながら、均一にあるいは葉色の淡い所を目掛けて散布していきます。これもなかなかきつい作業のひとつです。

③ 紋枯病の防除・・・早生種のこしいぶきは紋枯病(イネの茎に病原菌が付着し、イネが枯れあがり拡大すると大幅な減収となる)に弱いため、稲穂が付き始める7月後半に防除をします。粉剤は軽いので飛散し頭のでっぺんから農薬まみれとなります。体に良くないのはわかっていますが、酷暑の中ではつい軽装になってしまい、マスクもつけずに散布しています。



とにかく7月は雨ばかり。おかげで心配された水不足は解消されましたが、今度は日照不足が心配されます。なかなか思い道理にはならないものです。結局はお天道様頼みの商売です。

■ 今年も豊作？

7月25日現在の最新のデータをご紹介します。

- ①草丈 94.7cm(平年比122%)
- ②茎数 437本/m²(平年比81%)

草丈は平年よりやや長く、茎数はやや少なめ、日照不足のため出穂期は少し遅れ気味といったところです。8月の天候(特に気温)にもよりますが、今のところ順調に生育しています。



■ 米販売の営業活動も積極的に行っています。

6月末は関東方面、7月上旬は関西方面へ営業活動に出かけました。ここへきてコメは全国的にダブ付きぎみで、スーパーの安売り攻勢にお米屋さんも大苦戦だとか。「冷静に一食当たりの経費を計算したら、コメがいかに安価で栄養バランスのとれた食材であるかは一目瞭然。安いお米で家計を切り詰めても他で散財しては・・・」とはお米屋さんの弁。「いつまでもボク達の作ったお米が安心して売れますように・・・」と東京の神田明神さんにお参りました。



■ トマト初出荷！



7月26日、トマトの初出荷をしました。量的にはまだまだですが、これから収穫量もぐーんと伸びていきます。肝心の食味も糖度計で計ってみると糖度は8度。まずまずです。8月末頃から9月の稲刈りが始まる頃までがピークとなりそうですが、その間の事を考えると今からぞっとします。早朝5時から収穫に2時間、選別出荷に2時間、栽培管理は日中の猛暑の中、ハウス内は40~50℃となります。健闘を祈ってください。

■ 25年産米 年間玄米予約会員様を別紙のとおり募集いたします。皆様のお力添えをお願い申し上げます。価格は24年産と同様です。